B05 センチクバエ終齢幼虫のエクジソン合成能と体液ファクター

森林敦子(感染研、昆虫医科学部)、永嶋愛(東京農工大、農学部)、
荻野和正(大正製薬、第二研究室)

Effect of humoral factor on the activity to synthesize ecdysone by the ring gland in
mature larvae of the flesh fly, *Boettcherisca peregrina*

Moribayashi A. Nagashima A. and Ogino K.

センチクバエ体液中のエクジソン濃度を終齢幼虫から囲蛹殻形成期にかけて経時的に測定した。終齢幼虫を2日間水処理した後、幼虫を乾燥し成虫分化への発生を開始させると囲蛹化は25℃で乾燥後16時間から17時間に起きる。この時期にエクジソンの上昇が認められているが、今回、この上昇に先立って乾燥後10時間近辺にエクジソンの低いピークが存在することを確認した。このエクジソンのピークについて検討を行うため、エクジソン合成器官である環状腺の器官培養を幼虫体液存在下で行った。この結果、乾燥2時間後の体液が乾燥開始前後の体液に比較してエクジソンの合成を高めることを見いだした。更に、幼虫の各体節での結紮実験結果を加え、環状腺のエクジソン合成能を促進する体液ファクターについて検討する。

B06 インドネシアの森林伐採、村落形成過程におけるイエバエ属の侵入と定着

岩佐光啓(帯畜大)・倉橋 弘(国立感染研)・茂木幹義(佐賀医大)
Invasion and occurrence of Musca species in process of forest clearing and construction of

transmigrant villages in Indonesia

I w a s a M . , K u r a h a s h i H . a n d M o g i , M .

インドネシアにおいて森林伐採および村落形成過程におけるイエバエ属(*Genus Musca*)ハエ類の侵入と定着の様相を観察するために、中央スラウェシのT o i l i地区において、自然林(2地点)；伐採途中の自然林；自然林と新しい村との境界；新しい村(移住後1-2年)；移住後12年の村；移住後20年の村の計7地点において、腐肉誘引トラップを用いてイエバエ属ハエ類を採集した。その結果、自然林ではイエバエ属ハエ類は全く採集されず、伐採途中の自然林および自然林と新しい村との境界でイエバエとハラアカイエバエが侵入していた。新しい村では、前記2種に加えてフタスジイエバエが侵入・定着していた。また、セラム島の中央部に位置するムルケル山系の奥深くにあり、森林によって下界から隔絶された村(マヌセラ村)で同様の調査を行った結果、フタスジイエバエがイエバエ属の中で大きく優占し、イエバエは極めて少ないことが判った。